



## 求められるのは『平等』ではなく『公平』な世界

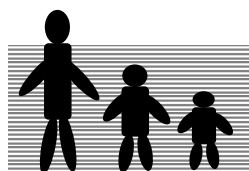
園長 笛木 哲

小学校の教員をしていた時、子どもたちに「嫌いな先生はどんな先生ですか？」と尋ねると、どの学年の子も、時代が変わっても、「えこひいきをする先生」と答えました。若い頃の私は、「怖い先生」「厳しい先生」がダントツの一位になると思っていましたから、子どもたちの答えは意外でした。でも、集団を預かる担任が、自分の気に入った子だけを特別に扱い、不公平に接することでクラスが壊れる様子を何度も見てきました。それなら、全ての子に平等に接することが大切かという、そうではないのが集団で学ぶ幼稚園教育、学校教育のおもしろいところです。

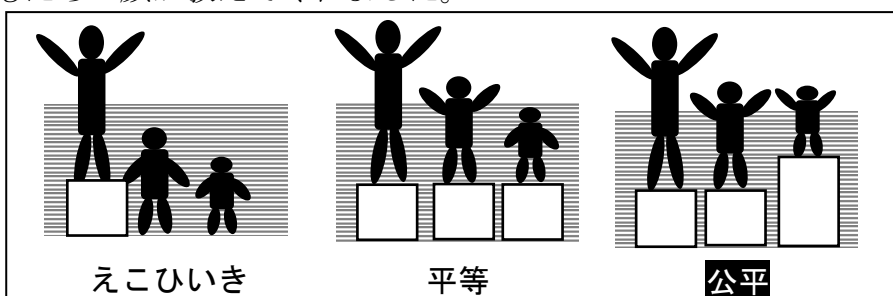
小学校の授業は、日本全国どこでも同じ基準で進めます。全ての子が、基準に到達するための授業にしようと思うと、学習能力の低い子どもに合わせた授業をすることになります。しかし、それでは学習能力の高い子どもは不満を持ちます。学習能力の高い子どものレベルに合わせた授業をすれば、ついていけない子どもが出てきます。学習に対する意欲や能力、生活環境が異なる子どもたちです。彼らの個別性を無視して、全ての子に同じことをしてあげることが、逆に無理や我慢を強いることになります。

身長の違い 3人の子どもが塀の向こう側を見ようとしています。背の高い子は塀の向こう側が見えますが、小さな子は背伸びしても見えません。そこで、3人に同じ大きさの箱を与えます（平等）。でも、「一人一人は違う」という個別性を理解している子どもたちは、こうした見せかけの平等を望んでいるわけではありません。子どもたちが望むのは、身長の違い 3人の子どもたちに、塀の向こう側を見るという目的が達成されるように、違う大きさの箱を与えることです（公平）。そうすることで、自分たちの教室（世界）が明るく楽しく、そして豊かになると知っているのです。

先日、朝の会で、名前を呼ばれても手を挙げることのできなかつた〇〇君が、担任の特別な援助（えこひいきではありません）で手を挙げる場面を見ました。初めて〇〇君が、手を挙げた時、周りから自然と拍手が生まれました。「〇〇君は、ぼくたちと苦手なところが違っているから、先生が〇〇君に特別なことをしても、それをえこひいきだとは思わない」と、子どもたちの顔が教えてくれました。



一人一人の違い



えこひいき

平等

公平

## お知らせ



### ①新しいお友達（ちゅうりっぷ組）の紹介

**4月** 井上敢太(かんた)さん **5月** 福泊星良(せいら)さん、福泊咲良(さくら)さん

**6月** 田村咲翔(さくと)さん、猪鼻柚華(ゆずか)さん **7月** 細谷怜希(れの)さん

が入園しました。どうぞよろしくお願ひいたします。なお、2学期（9月1日）より、ちゅうりっぷ組が独立します。これまで年少さんと一緒に過ごしてきた子どもたちは、新しいお友達と、ちゅうりっぷ教室（プール前。午後からは預かり保育のさくらんぼ教室に移行）が自分たちの教室になります。担任は野澤夏々です。

②荒天などにより7月9日(土)に夕涼み会を行えなかった場合、7月11日(月)は登園日になります。半日保育です。

③着替えた衣服を持ち帰るためのビニール袋(記名の上)をお子さんに持たせてください(特に水遊び期間)。ご協力をお願いします。

## 子どもの「ことば」

- ・4月、お家の人と離れるのが寂しくて、いつも泣いて登園していた〇君（年少）。6月になるとバスの中で保育者に、「●君と一緒にウルトラマンごっこをして遊ぶのが楽しみなんだ。●君がウルトラマントリガーになって、ぼくはトリガーじゃないけれど、宇宙まで飛んでいくんだ。」と笑顔で語ってくれたそうです。毎朝バス停まで送る祖母が「今月は泣いていません。」と。…毎朝、泣いて登園していた〇君が、心を許せる友だちができたことで、毎日笑顔で登園できるようになりました。●君がいるから教室が安心して過ごせる居場所となり、●君と一緒にだから楽しさが寂しさを吹き飛ばしてくれます。
- ・年長男児の会話から。「俺は、ママのおっぱいを触るのが好きなんだ。」「僕は、ママの匂いが大好き。だから、おばあちゃんに『ママのパジャマを洗わないで』って頼んでる。パパの匂いは、う〜ん、バナナの皮の匂いかな。」…年長児は幼稚園では一番のお兄さんお姉さんで、皆のリーダー。でも、お家に帰ると大好きなママに甘えたい気持ちをいっぱい持っているのですね。バナナの皮の匂いのお父さんは、ママのような甘い匂いはしないけれど、憧れの気持ちがあるのでしょうか。
- ・「戦争は昔もあったんだ。戦争は悲しいんだよ。」という年中児のことばに、年長児が笑みを浮かべながら「戦争はしてもいいんだよ」と応えていました。…「戦争は昔もあったんだ」ということを知っているのは、お家で戦争についてお話ししてくださったお陰です。さて、毎日ロシアとウクライナの戦争がテレビやスマホの画面を通して実況中継されています。戦地で生きる人の実感（吐息や手のひらの温かみ、匂い…）が薄れ、自分とは違う世界の出来事のように。決してこの子の言葉や笑みを責めることはできません。あまりにもかけ離れた過去の出来事と、テレビで繰り返して流される戦争と、ゲームの中で楽しむ闘いごっこが、子どもたちの頭の中でごちゃごちゃになっています。「平和」の大切さを『子どもたちの言葉』で語り合いたいですね。